

「7日間ブックカバーチャレンジ」

(2020. 5. 10～2020. 5. 18、Facebook に投稿)

浜本 雅之

第1日 (2020. 5. 10)

大城立裕『対馬丸』 (講談社文庫、2015)



対馬丸は沖縄から本土へ向かう途中、アメリカの潜水艦に沈められた学童疎開船である。その悲劇を伝える記念館が那覇市にある。児童、生徒の遭難を伝えるものとして新田次郎の『聖職の碑』もあげられよう。こちらにも涙なくして読むことはできない。

第2日 (2020. 5. 13)

遠藤周作『沈黙』 (新潮文庫、1981)



20以上の外国語に翻訳され、映画化もされている。神とは、布教とは、信仰とは何かなど、宗教について色々考えさせられる。外国人が日本人の国民性を考える一助にもなるのではなかろうか。

第3日 (2020.5.14)

斎藤秀三郎『NEW 斎藤和英大辞典 普及版』(日外アソシエーツ、2002)



漢詩や都都逸なども英訳されており、引くというよりも読んで楽しい辞書である。国語の勉強にもなるが、受験生にはあまりお勧めしない。他の受験科目の勉強に差し支えるおそれがあるから。

*「千里」の項から一例を挙げる(英訳文は割愛)。

惚れて通えば 千里も一里
会わずに帰れば また千里

第4日 (2020.5.14)

東海林さだお『ショーペン君の漫画文学全集 110 選』(文藝春秋、2004)



柳田國男に『明治大正史世相編』、色川大吉に『昭和史世相編』の著作があるが、本書は、いわば漫画版昭和史世相編。原典の小説をデフォルメ、否、超越した内容に触れ、にやにやしながら若き日を思い出す人も多いと思う。原典挑戦のインセンティブにもなるという副次的効果もある。

以下、目次を抜粋する。

ワーニャ伯父さん
個人的な体験
魔の山
路傍の石
それから

第5日 (2020.5.18)

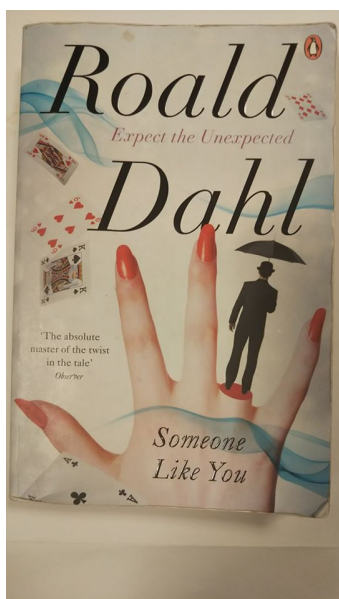
吉村昭『長英逃亡』 (毎日新聞社、1984)



牢屋の火災に乗じて脱獄した高野長英を幕府は威信を懸けて追跡する。逃亡を助ける各地の知人、門弟も命懸けである。勇気をもらえる本である。長英が匿われた家の一つに大分県中津市の医家があり、今は村上医家資料館となっている。

第6日 (2020.5.18)

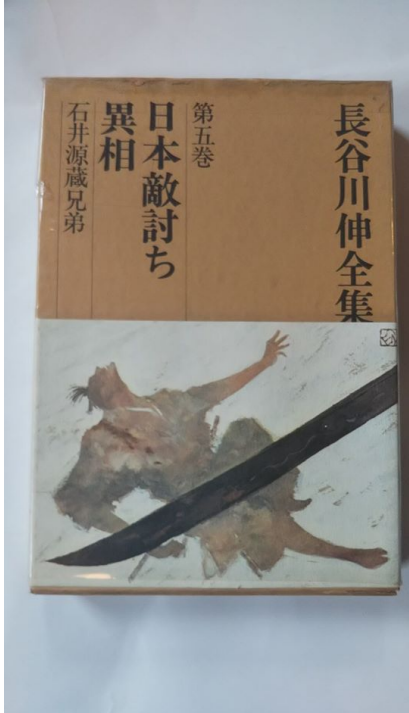
Roald Dahl『Someone Like You』、『Kiss Kiss』



モーパッサンなども短編の名手であるが、ロアルド・ダールの短編は、後味の悪さ、結末の曖昧さなど独特のものがああり、「奇妙な味」の作家の代表格とされている。戦闘機の体験に基づく作品や『チャーリーとチョコレート工場』などの児童文学でも知られている鬼才である。

第7日 (2020.5.18)

長谷川伸『日本敵討ち異相』 (朝日新聞社、1972)



江戸時代を背景とした小説や記録で最も興味を覚えるのは、敵討ちと漂流譚である。いずれも多くの本が書かれているが、初めて接したのは菊池寛の『恩讐の彼方に』であったであろうか。